

1 偶数と奇数

答え

- 1 ①△ ②○ ③△ ④○  
 2 ①101 ②998 ③450個  
 3 ①3049 ②10個  
 4 ①○ ②△ ③○ ④○

考え方

- 1 ある整数を2でわったとき、わり切れるならその数は偶数、わり切れない(1あまる)ならその数は奇数です。  
 ①  $71 \div 2 = 35$ あまり1  
 71は2でわり切れないので、奇数。  
 ②  $340 \div 2 = 170$   
 340は2でわり切れるので、偶数。  
 ③  $1357 \div 2 = 678$ あまり1  
 1357は2でわり切れないので、奇数。  
 ④  $9752 \div 2 = 4876$   
 9752は2でわり切れるので、偶数。  
 2 1 3けたの整数は、100から999までの数です。小さいほうの数から順に偶数か奇数かを調べていくと、



(○は偶数, △は奇数)

となるので、いちばん小さい奇数は101であることがわかります。

- 2 3けたの整数について、大きいほうの数から順に偶数か奇数かを調べていくと、



(○は偶数, △は奇数)

となるので、いちばん大きい偶数は998であることがわかります。

- 3 1から999までの999個の整数の中で、1から99までの99個は3けたの整数ではないので、3けたの整数は、 $999 - 99 = 900$ (個)あります。奇数と偶数は交互にならんでいるので、求める個数は、

$$900 \div 2 = 450 \text{ (個)}$$

- 3 1 ① 0, ③, ④, ⑨の4まいのカードを使ってできる数が奇数になるとき、一の位には③または⑨が入ります。いちばん小さい数にするには、千の位に③、百の位に①、十の位に④、一の位に⑨を入れればよいので、求める数は、3049です。

- 2 ① 0, ③, ④, ⑨の4まいのカードを使ってできる数が偶数になるとき、一の位には0または4が入ります。一の位が0のとき、カードを使ってできる数を小さい順に書き出すと、3490, 3940, 4390, 4930, 9340, 9430の6個

一の位が4のとき、千の位に0は入らないことに注意して、できる数を小さい順に書き出すと、

$$3094, 3904, 9034, 9304 \text{ の4個}$$

- したがって、 $6 + 4 = 10$ (個)  
 4 適当な数字をあてはめて考えます。  
 ① 奇数1と奇数3をたすと4になるので、奇数+奇数は偶数になります。  
 ② 偶数2と奇数1をたすと3になるので、偶数+奇数は奇数になります。  
 ③ 偶数2と偶数4をかけると8になるので、偶数×偶数は偶数になります。  
 ④ 偶数2と奇数1をかけると2になるので、偶数×奇数は偶数になります。

2 三角形の面積

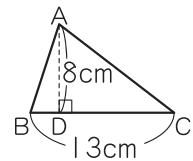
答え

- 1 ①  $52\text{cm}^2$  ②  $15.6\text{cm}^2$   
 2 ① 12.5 ② 84.1  
 3 ①㉠ ②㉡  
 4  $186\text{cm}^2$

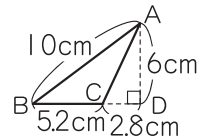
考え方

- 1 ① 三角形の面積=底辺×高さ÷2で求めることができます。

- 1 下の図で、辺BCを底辺とすると、直線ADの長さが高さになるので、面積は、 $13 \times 8 \div 2 = 52 \text{ (cm}^2\text{)}$



- 2 下の図で、辺BCを底辺とすると、直線ADの長さが高さになるので、面積は、 $5.2 \times 6 \div 2 = 15.6 \text{ (cm}^2\text{)}$



- 2 1 底辺 = 三角形の面積 × 2 ÷ 高さで求めることができます。高さが12cm、面積が $75\text{cm}^2$ なので、 $75 \times 2 \div 12 = 12.5 \text{ (cm)}$   
 2 右上の図で、辺ABを底辺とすると、辺ACの長さが高さになるので、この三角形の面積は、 $58 \times 60.9 \div 2 = 1766.1 \text{ (cm}^2\text{)}$   
 また、辺BCを底辺とすると、直線ADの長さが高さになるので、辺BCの長さは、 $1766.1 \times 2 \div 42 = 84.1 \text{ (cm)}$

Z会 × ちびむすドリル

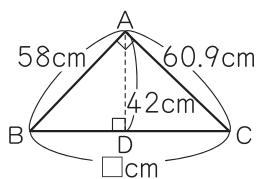
考える楽しさを体験しよう!



Z会の本



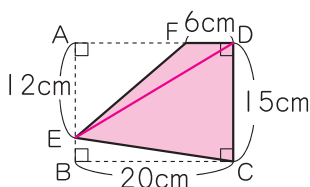
かっこいい小学生になろう



3 ㊲～㊵の三角形は、どれも高さが同じなので、底辺の長さで面積の大きが比べられます。つまり、底辺の長さが短いほど面積は小さく、底辺の長さが長いほど面積は大きくなります。

- 1 面積がいちばん小さい三角形は、底辺の長さがいちばん短い㊴です。
- 2 ㊲と底辺の長さが同じ三角形が答えになるので、㊵です。

4



上の図のように、<sup>ちょうてん</sup>頂点Dと頂点Eを結んで考えます。

三角形CDEの面積は、  
 $15 \times 20 \div 2 = 150 \text{ (cm}^2\text{)}$

三角形DFEの面積は、  
 $6 \times 12 \div 2 = 36 \text{ (cm}^2\text{)}$

したがって、求める面積は、  
 $150 + 36 = 186 \text{ (cm}^2\text{)}$

3 速さ

答え

- 1 ① 168km      ② 2040m  
 ③ 12分      ④ 5時間 15分
- 2 ① 65km      ② 2時間 30分
- 3 ① 2時間 30分   ② 時速 48km

考え方

1 道のりと時間は、次の式で求めることができます。

道のり = 速さ × 時間

時間 = 道のり ÷ 速さ

- 1 この自動車は1時間で84km走るの、2時間で走る道のりは、  
 $84 \times 2 = 168 \text{ (km)}$
- 2 音は1秒間で340m進むので、6秒間で進む道のりは、  
 $340 \times 6 = 2040 \text{ (m)}$
- 3 1分間で80m歩くので、960m歩くのにかかる時間は、  
 $960 \div 80 = 12 \text{ (分)}$
- 4 168kmの道のりを3時間で走る自動車の速さは、 $168 \div 3 = 56$  より時速56kmです。この速さで294km走るのにかかる時間は、

$294 \div 56 = \frac{21}{4} = 5 \frac{1}{4} \text{ (時間)}$

$\frac{1}{4}$ 時間 = 15分だから、かかる時間は、

5時間 15分

- 2 ① 1時間40分 = 100分、  
 分速650m = 分速0.65km  
 だから、道のり = 速さ × 時間より、  
 $0.65 \times 100 = 65 \text{ (km)}$

2 1秒間で、200m = 0.2km進みます。 $0.2 \times 60 \times 60 = 720 \text{ (km)}$ より、この飛行機は時速720kmで飛びます。1800km飛ぶのにかかる時間は、時間 = 道のり ÷ 速さより、  
 $1800 \div 720 = 2.5 \text{ (時間)}$   
 したがって、2時間30分です。

- 3 ① 行きにかかった時間は、  
 $60 \div 60 = 1 \text{ (時間)}$   
 帰りにかかった時間は、  
 $60 \div 40 = 1.5 \text{ (時間)}$   
 だから、往復にかかった時間は、  
 $1 + 1.5 = 2.5 \text{ (時間)}$   
 $0.5 \text{ 時間} = 30 \text{ 分}$ だから、2時間30分
- 2 <sup>かたみち</sup>片道が60kmだから、往復したときの道のりは、 $60 \times 2 = 120 \text{ (km)}$   
 往復したときの平均の速さは、  
平均の速さ  
 $= \text{往復の道のり} \div \text{往復にかかった時間}$   
 で求められるから、  
 $120 \div 2.5 = 48$   
 したがって、時速48kmです。

Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさを体験しよう!



Z会の本



かっこいい小学生になろう